様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２５ 日現在

機関番号：６４４０１
研究種目：基盤研究(S)
研究期間：2011～2015
課題番号：２３２２２００３

研究課題名（和文）権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築

研究課題名（英文）Reinventing the Study of Andean Civilization through Analysis of the Foundation of Power

研究代表者
關　雄二（Seki, Yuji）

国立民族学博物館・民族社会研究部・教授

研究者番号：５０１６３０９３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　140,300,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトでは、アンデス文明初期にあたる形成期（前3000年～紀元前後）に焦点を絞り、ペルー北高地に位置するパコパンパ祭祀遺跡を調査し、遺構、出土遺物の分析を考古学のみならず理化学を含む分野横断的体制の下で進め、経済面以上に、イデオロギー面基盤を持つ社会的リーダーが紀元前800年頃に出現したことをつきとめた。またその権力形成過程や基盤に地域的多様性が認められることが判明した。この成果はアンデス以外の世界の古代文明においても適用できる可能性があり、その点で唯物史観に依存してきた文明研究に新たな視座を与えることができたと考えられる。

研究成果の概要（英文）：　We have focused on the Formative Period (B.C.3000-A.D.1) in Andean Civilization. We carried out excavations at the Pacopampa archaeological site located in the northern highlands of Peru. Excavated materials were analyzed by an interdisciplinary team. We found that social leaders with ideological characteristics emerged already by around B.C. 800. The result presents an exact contrast to conventional theory in which economic factors such as the control of surplus have been regarded as the most likely cause for the emergence of power.
We also confirmed that regional diversity existed during the formation process and has a role in the foundation of power in Andean Civilization.It is possible that the model developed during this project can also be applied to the analysis of other ancient civilizations in the world. The project offers a new approach for studies on ancient civilization - studies that have generally taken historical materialism as a starting point for analysis.

研究分野：文化人類学・民俗学

キーワード：考古学　文化人類学　文明　複雑社会　権力

１．研究開始当初の背景

部族から国家へという、かつて隆盛をきわめた進化主義的見方が、個々の文化の脈絡を重視する研究の前に衰退すると、文明研究も停滞する。しかし、現在では手法も精緻化され、地域的多様性を押さえた上で比較を行う文明研究が盛んになりつつある。

２．研究の目的

50 年以上続く日本のアンデス文明研究の成果を踏襲しながらも、権力という新たな分析視点と分野横断的な手法をミクロ・レベルの考古学調査に導入し、文明初期における複合社会の成立過程（メソ・レベル）を追究するばかりでなく、人類史における文明形成というマクロな課題に取り組むことにある。

３．研究の方法

アンデス文明初期にあたる形成期（前 3000 年～紀元前後）に焦点を絞り、ペルー北高地に位置するパコパンパ祭祀遺跡の調査し、遺構、出土遺物の分析を、考古学のみならず理化学を含む分野横断的体制の下で進める（ミクロ・レベル）。その際、経済、軍事、イデオロギーという権力資源を同定し、資源の組み合わせと権力形成に注目する。また同時期、さらには後の国家社会との比較を国際集会を利用しながら実施し、権力を通してみたアンデス文明史を構築する（メソ・レベル）。さらにアンデス文明形成に関わるデータを、中米および旧大陸の文明形成過程と比較するため研究集会を開催し、アンデス文明を相対化する作業も併せて行う（マクロ・レベル）。

４．研究成果

成果は以下のようにまとめられる。

(1)アンデス文明初期の権力形成時期の把握

この成果は、ペルー北高地に位置するパコパンパ遺跡の発掘調査、出土遺物の分析および周辺の一般調査というミクロ・レベルの研究で得られた。同遺跡では、本プロジェクト以前に通称「パコパンパの貴婦人」と呼ばれる貴人墓が発見されていたが、神殿建築の途上で建物に埋め込まれた墓であったため、神殿完成後の社会については不明な点が多かった。本プロジェクトでは**墓の構造、金製品を含む副葬品の存在などから神殿建設後の社会的リーダーであった人物の特定に成功した。**この点は自然人類学的分析による被葬者の頭蓋変形の検出によっても補強できた。頭蓋変形が生後直後の処置を必要とする点、限られた被葬者に認められる点を考慮するならば、被葬者の誕生時にリーダーとしての地位は確保されていたことになる。放射性炭素年代測定により**紀元前 800 年頃**であることも判明した。さらにパコパンパと同時代のクントゥル・ワシ遺跡の複数の墓より出土した金製品の組成を蛍光Ｘ線で解析し、金と銀の組成比率を析出した。この結果、被葬者の社会的地位と金の質に相関関係が認められ、社会的リーダー内部でも微妙な差異が存在することがうかがわれた。

(2)アンデス文明初期の権力基盤の特定

同じくミクロ・レベルの調査と分析によってこの点を明らかにした。**経済面**では、動植物の利用に主眼を置いた分析を進めた。降雨地帯のため、遺存体の残りを期待することが難しい環境ながら、科学分析を駆使してこのテーマに迫った。具体的には調理の痕跡である土器の焦げと人間の歯石に残ったデンプン粒の同定により、初期にはマニオクなどの熱帯低地性の根菜類が利用され、後期に高地性のトウモロコシ、ジャガイモの利用が高まることを検出した。時代を経るにつれ、遺跡の東に広がる熱帯低地から、南にひろがる山地や海岸とのつながりが強くなっていくことを示したものである。パコパンパと同じような権力形成が同時期に認められる遺跡が南部に広がっていることから考えれば、**リーダーのネットワークが環境利用と関連していることがわかる。**なおこのトウモロコシ利用は、人骨の炭素・窒素同位体分析でも検証できた。

また獣骨については、炭素・窒素ばかりでなく、酸素やストロンチウム同位体の分析を行い、高地性家畜であるラクダ科動物が、遺跡周辺で飼育されていたことを突き止めた。とくに**ラクダ科動物については、後の時代に認められるような荷駄運搬用として別の場所から持ち込まれたのではなく、神殿の儀礼に供せられるために周辺で飼育されていた**可能性を指摘できた点は大きい。

奢侈品経済では、**海棲貝類を利用した装飾品**がリーダーの墓の副葬品として出土している点は他地域とのネットワークの確立を示す重要な証拠である。しかしそれ以上に、出土量が際立った銅製品について総合的な分析を行った。具体的には鏨や鉱滓、鋳型を考古学的に検出したばかりでなく、それらに付着した粒子が金や銅であることを蛍光Ｘ線によって析出した。また孔雀石、珪孔雀石、藍銅鉱などの銅の二次鉱物の鉱山を発見し、採取した試料を用いた実験により精錬銅の製作に成功した。アンデス文明初期の金属製作過程を世界で初めて明らかにした画期的な成果である。これにより、少なくとも、パコパンパにおける社会的リーダーの**権力基盤がネットワークを介した遠距離の交易ばかりでなく、銅製品の生産と消費である**ことが判明した。

軍事面における証拠は得られていないが、イデオロギー面では数多くの証拠が得られた。とくにトータルステーションによる遺構と地形の測量は、建築軸の方向とアンデスにおいて農耕の開始を告げる星座であるスバルの出現場所との関係が時代的に変化すること明らかにし、**星座を介した豊穣性と祭祀空間の変貌とを結びつけるユニークな天文考古学的解釈**を導き出した。

このように経済的側面は常にイデオロギ

ーと関連している。たとえばトウモロコシは、食糧のほか、アンデスの祭祀に必須な酒の材料となり、また銅製品も実用品というより儀礼用具であった可能性が高い。さらに 2014 年には、アンデス文明初期の遺跡としては大変珍しい儀礼的饗宴が行われた場所を発見し、酒の醸造関係の土器の分析や、消費された動物の同定などを多角的に進めることができた。これまで**権力生成における饗宴の重要性**はアンデス考古学で指摘されてきたものの、具体的な出土遺物の総合的分析を行った例はなく、その発見と分析の意義は大きい。なおミクロ・レベルのまとめとして 2016 年 1 月に開催した最終シンポジウムで討論された内容は、今年度中に日本語の単行本として臨川書店より、そしてペルー国立サン・マルコス大学より西文で出版される予定である。

こうしたミクロ・レベルのデータのうち、基礎となる遺構データについては**GIS データベースを**、さらに当初予定していなかった**完形土器の三次元画像データベース**を作成し、世界的に発信している。

(3)アンデス文明初期の権力形成とその基盤の多様性

上記のミクロ・レベルの成果は、ワークショップやシンポジウムを用いたメソ・レベル研究に接合させた。具体的には、形成期に関する**国際集会を計 9 回（国内 4 回、国外 5 回）開催した。**とくにラテンアメリカ研究の世界最大の会議である国際アメリカニスト会議において「アンデス形成期における社会の複雑化」（2012 年ウィーン）と「中央アンデスにおける初期の公共建造物の伝統」（2015 年サン・サルバドル）と銘打ったシンポジウムをイェール大学とバルセロナ大学と共同で組織し、アンデス各地の形成期社会を比較できた点は研究の国際性を確保する上でも大きな成果といえる。そこでは、同時代でも権力生成が認められない場所がある点、また権力生成が認められても、パコパンパのような金属製品の生産に重きを置くケースもあれば、クントゥル・ワシのように長距離交易を重視するケースもあり、**権力生成とその基盤に多様性が認められた**点が明らかになった。成果の一部は、2014 年に国立民族学博物館より西文で出版し（*Senri Ethnological Studies* 89）、著名な人類学雑誌 *Anthropos* の書評でも取り上げられ高い評価を得た。さらにその後のデータを加える形で本年 6 月にイェール大学出版部から英文でも公刊される予定である。また形成期遺跡を代表するチャビン・デ・ワンタル遺跡を近年発掘しているスタンフォード大学のチームを招へいし、2 回におよぶワークショップを実施し、比較研究を進めた。この成果については、現在編集中であり、国立民族学博物館より英文で出版する予定である。

(4)アンデス文明後期における権力生成における西欧モデルの批判的検証

さらにメソ・レベルとしてアンデス文明初期の考察をそれ以降の古代文化の分析で参照するための**国際ワークショップを計 5 回（国内）**開催した。具体的には後 700～1000 年にかけて広大な王国を築いたワリと、後 200 年～700 年頃に成立し、地上絵で有名なナスカ、そしてボリビア高地で後 500～1100 年頃に成立したティワナクの社会を対象とした。とくに欧米研究者が唱える中核地と周辺の関係、中核地への巡礼というテーマは、本研究が注目する地域的多様性を前提にしたときに説得力をもちうるのかが議論の焦点となった。**文化の連続性や同質性を前提とする欧米の研究に本研究が再考を促す形となった。**これについては国立民族学博物館から西文で、さらにワークショップを共催した山形大学より英文で出版を予定している。

(5)世界の古代文明の解釈におけるアンデス文明からの視座

マクロ・レベルでは、中米のマヤ文明やテオティワカン文明、西アジア文明、およびエジプト文明を対象に**計 5 回（国内）の研究集会**を開催し、1 回を除き、国内研究者と議論を重ねた。その際、経済的基盤と祭祀との関係に限定して議論を進めた。マヤ文明においては、祭祀建造物の出現の前提としてトウモロコシ農耕を置く経済重視の姿勢が強かったが、西アジアでは、近年、採集狩猟段階で定住化と、巨大な祭祀建造物の誕生が報告されている。また逆にエジプトでは農耕が外から導入された後に文明が成立するところから、唯物史観が適合する状況が確認された。とくに**西アジアの文明形成で主流となっていた唯物史観が、西アジアそのものですでに見直されている点を確認できた**ことは、本研究の意義を高めることにもつながり、これについては朝日新聞出版より報告書が刊行された。来年度にはエジプトとの比較を題材にした一般書を同成社より刊行する予定である。

(6)社会還元

このように、ミクロからマクロまでの研究は有機的につながり、**予定以上に充実した活動と成果**が得られた。図書 4 件、研究者個人の成果も論文 51 本、研究発表 140 本と活発なものであり、現在も科学雑誌に投稿中の論文もある。しかしなにより**科研費プロジェクトとしてのまとまりのある成果報告書の公刊を第一に目指しており、和文・欧文での刊行がこの 1 年で数多く実現される予定である。**

また社会還元についても、ホームページで常に研究を発信し、大半の研究集会は公開で行ってきた。当該プロジェクトに関する報道は、**新聞 29 件**（国内 21 件、ペルー8 件）、**テレビ 5 件**（国内 3 件、ペルー2 件）と社会的にも注目されてきた。またインターネット上の報道となると国内外で数限りない。さらに最終年度には、***National Geographic* スペイン・デジタル版**の他、英国の考古学一般誌 ***World Archaeology Magazine*** で表紙を含め 7 ページにおよぶ特集号が組まれ、さらに 55

年におよぶ日本アンデス調査団の歴史でも初めて、米国の著名な雑誌 ***Archaeology*** において２ページの特集が組まれるなどプロジェクトの国際的な関心にも応えてきた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計 51 件）
(1)Seki, Yuji, Diana Alemán Paredes, Mauro Ordoñez Livia and Daniel Morales Chocano, “Emergence of Power during the Formative Period at the Pacopampa Site, Peru.” In Burger, Richard, Yuji Seki and Lucy Salazar(eds.) *New Perspectives on Early Peruvian Civilization: Interaction, Authority, and Socioeconomic Organization during the 1st and 2nd Millennia B.C.* Yale University Publications in Anthropology. New Haven: Department of Anthropology, Yale University; Peabody Museum of Natural History, 査読あり,in press.
(2)Nakagawa, Nagisa, Yuji Seki y Daniel Morales Chocano, “Construcción de la base de datos y análisis 3D de la cerámica del sitio arqueológico Pacopampa.” *Arkeos* 8(15), Lima: Pontificia Universidad Católica del Perú, 査読なし，印刷中.
(3)関雄二,「古代アンデスにおける神殿の登場と権力の発生」 関雄二編『古代文明アンデスと西アジア 神殿と権力の生成』pp.125-166，東京：朝日新聞出版，査読なし，2015.
(4)関雄二,「アンデスと西アジア　揺れ動く古代文明への眼差し」 関雄二編『古代文明アンデスと西アジア 神殿と権力の生成』pp.3-39，東京：朝日新聞出版，査読なし，2015.
(5)鵜澤和宏,「供犠されるリャマとアルパカ」 『Biostory (生き物文化誌学会学会誌)』vol.23，pp.28-31，査読あり，2015.
(6)中川渚，関雄二，ダニエル・モラーレス，フワン・パブロ・ビジャヌエバ，マウロ・オルドーニェス，ディアナ・アレマン，「パコパンパ遺跡出土土器の３Ｄデータベース作成」『日本情報考古学会講演論文集』Vol.14，pp.39-41，査読あり，2015.
(7)関雄二,「南米ペルーにおける文化遺産観光とその問題点―国際協力の現場から―」. 天理大学アメリカス学会編『アメリカスのまなざし―再魔術化される観光―』pp.20-34，天理 ： 天理大学出版部，査読なし，2014.
(8)関雄二，「古代アンデスにおける神殿の「はじまり」―モノをつくりモノに縛られる人々」 池内了編『「はじまり」を探る』pp.127-140，東京：東京大学出版会，査読なし，2014.
(9)関雄二，「古代アンデス文明におけるモニュメントと社会」 一瀬和夫・福永伸哉・北條芳隆編『古墳時代の考古学　９　21 世紀の古墳時代像』pp.192-210，東京：同成社，査読なし，2014.
(10)Seki, Yuji, “La diversidad del poder en la sociedad del Período Formativo. Una perspectiva desde la sierra norte.” En Y.Seki(ed.) *Senri Ethnological Studies* No.89, pp175-200, Osaka: National Museum of Ethnology, 査読あり，2014.
(11)Seki, Yuji, “Introducción”. En Y.Seki(ed.) *Senri Ethnological Studies* No.89, pp.1-19, Osaka: National Museum of Ethnology, 査読あり，2014.
(12) Inokuchi, Kinya, “Cronología del Período Formativo de la sierra norte del Perú: Una consideración desde el punto de vista de la cronología local de Kuntur Wasi.” En Y.Seki(ed.) *Senri Ethnological Studies* No.89, pp.123-158, 査読あり，2014.
(13)日髙真吾，関雄二，橋本沙知，椎野博，「アンデス文明形成期の金属製品の製作に関する一考察―クントゥル・ワシ遺跡およびパコパンパ遺跡出土の金属製品の蛍光 X 線分析の結果から―」 『国立民族学博物館研究報告』38 巻 2 号, pp.125－185，査読あり，2014.
(14)Druc, Isabelle, Kinya Inokuchi y Zhizhang Shen, “Análisis de arcillas y material comparativo por medio de difracción de rayos X y petrografía para Kuntur Wasi, Cajamarca, Perú.” *Arqueología y Sociedad* No.26, pp.91-109, 査読あり，2013.
(15)関雄二，「翼を持つ女性：ペルー、パコパンパ遺跡におけるシンボリズムとイデオロギー」 『共生の文化』7，pp.66-72，長久手町(愛知県)：愛知県立大学多文化共生研究所，査読なし，2012.
(16)鵜澤和宏，「人類の進化と火」 朝倉敏夫編『火と食』，pp.44-66，東京：ドメス出版，査読なし，2012.
(17)Nagaoka, Tomohito, Yuji Seki, Wataru Morita, Kazuhiro Uzawa, Diana Aleman Paredes, Daniel Morales Chocano, “A Case Study of a High-status Human Skeleton from Pacopampa in Formative Period Peru.” *Anatomical Science International*, No. 87, pp.234-237,査読あり，2012.
DOI 10.1007/s12565-011-0120-z.
(18)長岡朋人，森田航，関雄二，鵜澤和宏，井口欣也，フアン・パブロ・ビジャヌエバ，ディアナ・アレマン，マウロ・オルドーニェス，ダニエル・モラーレス，「ペルー、パコパンパ遺跡から出土した人骨の生物考古学的研究」『古代アメリカ』第 14 号, pp.1-27, 査読あり，2011.

〔学会発表〕（計 140 件）
(1)関雄二，「ペルー北高地パコパンパ遺跡における「ヘビ・ジャガー神官の墓」の発見」

古代アメリカ学会第20回研究大会(2015.12.6)，東京大学理学部，東京都文京区.
(2)鵜澤和宏，「パコパンパ遺跡の儀礼的コンテキストから出土した動物骨資料：饗宴行為の動物考古学的復元」古代アメリカ学会第20 回研究大会(2015.12.6)，東京大学理学部，東京都文京区.
(3)長岡朋人，「ペルー、パコパンパ遺跡から出土した人骨の生老病死の復元」 古代アメリカ学会第20回研究大会(2015.12.6)，東京大学理学部，東京都文京区.
(4)Seki, Yuji “Aparición de la arquitectura ceremonial: Desde una perspectiva de las excavaciones en Kotosh.” Simposio conmemorativo por el centenario del nacimiento de Seiichi Izumi (2015.8.4), Biblioteca Nacional, Lima, Perú.
(5)Seki, Yuji, “Arquitectura pública y el establecimiento del poder en la sociedad formativa de Pacopampa en la sierra norte del Perú.” 55º Congreso Internacional de Americanistas (2015.7. 14), Universidad Francisco Gavidia, San Salvador, El Salvador.
(6)Inokuchi, Kinya, “La arquitectura pública-ceremonial de Kuntur Wasi: la transformación y su implicancia.” 55 º Congreso Internacional de Americanistas (2015.7.14), Universidad Francisco Gavidia, San Salvador, El Salvador.
(7)井口欣也，「アンデス文明初期の神殿と経済活動―クントゥル・ワシ遺跡の調査成果から」 公開フォーラム「古代文明の生成過程－エジプトとアンデス」(2015.1.25)，JP タワー ホール＆カンファレンス，東京都千代田区.
(8)鵜澤和宏，「パコパンパ遺跡の儀礼的コンテキストから出土した動物骨資料：資料形成過程の解明に果たすタフォノミー分析の可能性について」 古代アメリカ学会第19回研究大会(2014.12.6)，名古屋大学，愛知県名古屋市.
(9)長岡朋人，「ペルー、パコパンパ遺跡出土人骨の生物考古学的研究－2005～2014年調査による新知見－」 第68回日本人類学会大会シンポジウム「アンデス文明形成期における人類学・考古学研究の最新成果」(オーガナイザー：長岡朋人、関雄二)(2014.11.2)，アクトシティ浜松コングレスセンター，静岡県浜松市.
(10)Nagaoka, Tomohito, “Bioarchaeology of human skeletal remains from Pacopampa in the northern highland of Peru.” International symposium: comparative studies among the Formative Period cultures in the Andes (2014.11.29), National Museum of Ethnology, Osaka, Japan.
(11)Uzawa, Kazuhiro, “Hunting to Herding: Understanding the Subsistence Change in the Formative Period.” International symposium: comparative studies among the Formative Period cultures in the Andes (2014.11.29), National Museum of Ethnology, Osaka, Japan.
(12)関雄二，「アンデス文明の誕生と神殿建設」 日本DNA多型学会第23回学術集会（2014.11.26），愛知県産業労働センターウインクあいち，愛知県名古屋市.
(13)鵜澤和宏，「アンデス形成期における動物利用 ―初期ラクダ家畜の導入と社会変容―」 第68回日本人類学会大会シンポジウム「アンデス文明形成期における人類学・考古学研究の最新成果」(2014.11.2)，アクトシティ浜松コングレスセンター，静岡県浜松市.
(14)Uzawa, Kazuhiro, “Early Domesticated Camelid Dispersal and Breeding at the Pacopampa site, Northern Highlands of Peru.” International Conference of Archaeo Zoology (2014.8.24), San Rafael, Argentina.
(15)関雄二，「ジャガー人間石彫の発見―アンデス文明における社会的格差の出現」 公開フォーラム「古代文明の生成過程―西アジアとアンデス」(2014.1.26)、JPタワー ホール＆カンファレンス，東京都千代田区.
(16)関雄二，「ペルー北高地パコパンパ遺跡における石彫の発見」 古代アメリカ学会第18回研究大会(2013.12.7)，山形大学，山形県山形市.
(17)長岡朋人，「ペルー・パコパンパ遺跡出土人骨の生物考古学的研究―2013年度調査速報―」 古代アメリカ学会第18回研究大会(2013.12.7)，山形大学，山形県山形市.
(18)鵜澤和宏，「ペルー北高地パコパンパ遺跡における哺乳動物利用」 古代アメリカ学会第18回研究大会(2013.12.7)，山形大学，山形県山形市.
(19)井口欣也，「クントゥル・ワシ遺跡出土土器の原材料に関する研究」 古代アメリカ学会第18回研究大会(2013.12.7)，山形大学，山形県山形市.
(20)Inokuchi, Kinya, “Kuntur Wasi y el problema Chavín.” Simposio Internacional “Nuevos horizontes de los estudios de Chavín” (2013.11.30), Museo Nacional de Etnología, Osaka, Japón.
(21)Seki,Yuji, “Kuntur Wasi y Pacopampa: Dos modos del proceso social del Período Formativo en la sierra norte del Perú.” Simposio Internacional “Nuevos horizontes de los estudios de Chavín” (2013.11.30), Museo Nacional de Etnología, Osaka, Japón.
(22)鵜澤和宏，「アンデス形成期における動物利用 ―ペルー北部高地に位置する２つの神殿遺跡から出土した動物相―」 日本動物

考古学会第１回大会(2013.11.17)，慶應義塾大学，東京都港区.
(23)長岡朋人，「ペルー・パコパンパ遺跡出土人骨の研究-2005～2012 年 調査の概要」第 67 回日本人類学会大会(2013.11.2)，国立科学博物館，茨城県つくば市.
(24)Seki, Yuji, “El manejo del patrimonio arqueológico y la participación de la comunidad en la sierra norte del Perú.” XVI Congreso de la Federación Internacional de Estudios sobre América Latina y el Caribe (2013.10.10), Antalya, Turqúia.
(25)Seki, Yuji, “Dos modo del proceso social del Período Formativo en la sierra norte del Perú.” I Simposio Internacional arquitectura, arqueología y museos; Desde el Precerámico hasta los Incas en el Norte del Perú, (2013. 8.6), Auditorio del Colegio Nacional San José, Chiclayo, Perú.
(26)Seki, Yuji, “Templo Sagrado de Pacopampa. Una perspectiva desde las investigaciones de la MisiónArqueológica Japonesa en Cajamarca.” Simposio “Cajamarca Prehispánica: Recientes investigaciones arqueológicas en la región” (2012.2.28), Camposanto de Complejo Monumental de Belén, Lima, Perú.
(27)鵜澤和宏，「骨損傷の多様性」 第 65 回日本人類学会大会(2011.11.6)，沖縄県立博物館・美術館，沖縄県那覇市.

〔図書〕（計　4 件）
(1) Burger, Richard, Yuji Seki and Lucy Salazar(eds.) *New Perspectives on Early Peruvian Civilization: Interaction, Authority, and Socioeconomic Organization during the 1st and 2nd Millennia B.C.* Yale University Publications in Anthropology. New Haven: Department of Anthropology, Yale University; Peabody Museum of Natural History. (in press)
(2)関雄二編、東京：朝日新聞出版、『古代文明アンデスと西アジア　神殿と権力の生成』、2015、264 ページ。
(3)Yuji Seki(ed.), Osaka: National Museum of Ethnology, *El Centro Ceremonial Andino: Nuevas Perspectivas para los Períodos Arcaico y Formativo (Senri Ethnological Studies 89)*, 2014, 316 pages.
(4)Yoshio Onuki y Kinya Inokuchi, Fondo Editorial del Congreso del Perú, *Gemelos prístinos: el tesoro del templo de Kuntur Wasi*, 2011, 157 pages.

〔その他〕
ホームページ
(1)国立民族学博物館
http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/23222003
(2)科研「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」プロジェクト
http://www.r.minpaku.ac.jp/sekito/kaken/sekikaken-index.html
(3)データベース公開
①パコパンパ遺跡 GIS
http://www.r.minpaku.ac.jp/sekito/kaken/gis-database-e.html
②パコパンパ遺跡出土土器 3D データベース
http://www.r.minpaku.ac.jp/sekito/kaken/doki-database.html

６．研究組織
(1)研究代表者
關　雄二（Seki, Yuji）
国立民族学博物館・民族社会研究部・教授
研究者番号：50163093

(2)研究分担者
井口　欣也（Inokuchi, Kinya）
埼玉大学・人間社会科学研究科・教授
研究者番号：90283027

坂井　正人（Sakai, Masato）
山形大学・人文学部・教授
研究者番号：50292397

鵜澤　和宏（Uzawa, Kazuhiro）
東亜大学・人間科学部　・教授
研究者番号：60341252

米田　穣（Yoneda, Minoru）
東京大学・総合研究博物館・教授
研究者番号：30280712

(3)連携研究者
清水　正明（Shimizu, Masaaki）
富山大学・理工学研究部・教授
研究者番号：50162714

長岡　朋人（Nagaoka, Tomohito）
聖マリアンナ医科大学・医学部・准教授
研究者番号：20360216